科目名【英】	経営マネジメント Office Management			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	土曜日	時　限	3.4

担当教員	上田　玲子　/　布施　正朝	実務者経験	（上田）2020年6月より大学・企業・病院機構にてキャリア研修講師、2022年8月より大学キャリアセンターにて学生支援

学習内容	（上田）多種のアクティブラーニングを交えながら、社会人に必要なビジネス実務の基礎知識を学び、自主性、協調性、創造性を醸成して効果的なアウトプットの能力を修得する。また、自己分析、仕事理解を深めることで自己の適性を明確化し、社会貢献を意識したキャリアビジョンの構築に繋げる。
到達目標	（上田）目標1.体験を通して実務に必要なビジネススキルを修得する 目標2.社会人としての責任と役割を認識する 目標3.将来のキャリアビジョンを描く能力を身に付ける

準備学習 時間外学習	（上田）各回の講義内容を復習し、次回の課題提出に備える
使用教材	（上田）講師作成資料
留意点 備　考	（上田）グループワークなどのアクティブラーニングを中心に進行するため、各人の主体的、積極的な参加が望ましい

成績評価	布施：筆記（80%）、上田：筆記・その他（20%）　※上田の筆記試験は授業内で行い再試験はなし

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		1.オリエンテーション 2.キャリアとは 3.社会人に求められる能力	・講義ガイダンス・キャリアとは・ペーパータワーゲーム・社会人に求められる能力 【目標：ゲームで培った能力を明確化し、社会で求められる能力を理解する】
2		自己を知る	・卒業後の自己をイメージする（どのような社会人になりたいか） ・自分マップで強みを知る 【目標：エントリーシート作成に必要な自己分析の方法を知る】
3		1.ビジネスマナーの基本 2.コミュニケーション能力とは	・医療現場に必要なビジネスマナー・敬語の種類と使い方 ・言語/非言語コミュニケーション＊表現力＊傾聴力＊質問力＊観察力 【目標：ビジネスマナーとコミュニケーション能力の必要性を理解する】
4		職場の人間関係	・信頼関係の必要性と築き方・価値観カードで相手を知る 【目標：相手に応じた信頼関係の重要性を理解する】
5		メンタルヘルスマネジメント	・メンタルスキルとは　＊レジリエンス　＊リフレーミング　＊自己効力感 【目標：セルフケアの重要性を理解し、ストレス耐性を身に付ける】
6		1.企業の役割 2.マネジメントサイクル 3.グループディスカッション	・社会的責任とコンプライアンス・PDCAサイクル・報連相の重要性 ・グループディスカッション「自己の専門技術を地域医療にどう生かすか」 【目標：企業、組織人としての自己の役割を理解する】
7		1.将来のキャリアビジョンと仕事へのアプローチ 2.　筆記試験	・将来の目標（5年後、10年後のキャリアプランを立てる）・筆記試験 【社会の中の役割を理解し、これからどう活躍するか将来像を描く】
8		療養費の支給基準１	【布施】 療養費、医療費、国民医療費について説明ができる。
9	1/0	療養費の支給基準２	【布施】 初検料、初検時相談支援料、往療料について説明ができる。
10	1/0	療養費の支給基準３	【布施】 骨折脱臼における近接算定について説明ができる。
11	1/0	療養費の支給基準４	【布施】 受領委任の取り扱いについて説明ができる。
12	1/0	療養費の支給基準５	【布施】 保険施術、療養費の請求について説明ができる。

13	1/0	療養費の支給基準６	【布施】 施術録について説明ができる。
14	1/0	療養費の支給基準７	【布施】 柔道整復施術療養費、支給申請書について説明ができる。
15	1/0	試験・解説	【布施】 総合試験と解説

科目名【英】	関係法規 Legal Issues in medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	火曜日	時　限	1.2

担当教員	林　宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月　鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう

学習内容	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を学ぶ。
到達目標	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を説明することができ、適正な柔道整復師業務を行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	関係法規の予習が必要。
使用教材	教科書『関係法規』、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	期末試験100%で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	法の体系	法の体系について説明することができる。
2	1/0	患者の権利	患者の権利について説明することができる。
3	1/0	医療過誤とリスクマネジメント	医療過誤とリスクマネジメントについて説明することができる。
4	1/0	柔道整復師法の目的・定義	柔道整復師法の目的・定義について説明することができる。
5	1/0	柔道整復師免許	柔道整復師免許について説明することができる。
6	1/0	柔道整復師名簿	柔道整復師名簿について説明することができる。
7	1/0	柔道整復師免許証	柔道整復師免許証について説明することができる。
8	1/0	合格証書、合格証明書	合格証書、合格証明書について説明することができる。
9	1/0	業務範囲と禁止	業務範囲と禁止について説明することができる。
10	1/0	施術所	施術所について説明することができる。
11	1/0	広告、罰則	広告、罰則について説明することができる。
12	1/0	医療法	医療法について説明することができる。
13	1/0	指定登録機関、指定試験機関	指定登録機関、指定試験機関について説明することができる。
14	1/0	社会福祉関係法規	社会福祉関係法規について説明することができる。
15	1/0	試験解説	前期試験解説

科目名【英】	柔道４ Judo 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	木曜日	時　限	3.4

担当教員	中村　義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、投げの形を習得する。
到達目標	柔道を通して、技だけではなく礼儀作法に重点を置き社会人基礎力を習得する。 投げの形が出来るようになる。

準備学習 時間外学習	1.2年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備　考	準備運動としてストレッチや受身をとり外傷を予防する。

成績評価	実技評価100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	形（腰技）１	礼法、受身、浮腰を行うことができる。
2	1/0	形（腰技）２	礼法、受身、払腰（右）を行うことができる。
3	1/0	形（腰技）３	礼法、受身、払腰（左）を行うことができる。
4	1/0	形（腰技）４	礼法、受身、釣込腰（右）を行うことができる。
5	1/0	形（腰技）５	礼法、受身、釣込腰（左）を行うことができる。
6	1/0	形（腰技）６	腰技を左投、右投を行うことができる。
7	1/0	形（足技）１	礼法、受身、送り足払い（右）を行うことができる。
8	1/0	形（足技）２	礼法、受身、送り足払い（左）を行うことができる。
9	1/0	形（足技）３	礼法、受身、支え釣り込み足（右）を行うことができる。
10	1/0	形（足技）４	礼法、受身、支え釣り込み足（左）を行うことができる。
11	1/0	形（足技）５	礼法、受身、内股（右）を行うことができる。
12	1/0	形（足技）６	礼法、受身、内股（左）を行うことができる。
13	1/0	形（足技）７	足技を左投、右投を行うことができる。
14	1/0	復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
15	1/0	復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。

科目名【英】	柔道概論 Introduction of Judo			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	火曜日	時　限	1.2

担当教員	水谷　遼香	実務者経験	2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。

学習内容	1年生で履修した柔道整復学総論の国家試験対策としての復習を行っていく。
到達目標	柔道整復学総論と各論を結びつけ、引き出すことができ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	柔道整復学理論編第７版、柔道整復学実技編第２版、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	柔整総論１	骨損傷（分類、症状） 分類・症状の落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
2	1/0	柔整総論２	骨損傷（合併症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
3	1/0	柔整総論３	骨損傷（続発症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
4	1/0	柔整総論４	骨損傷（後遺症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
5	1/0	柔整総論５	骨損傷（小児・高齢者骨折の特徴．癒合日数．治癒経過．予後．影響因子） 年齢での治癒の違いと、影響因子を理解し、過去問題を解くことができる。
6	1/0	柔整総論６	関節損傷（構造．分類．関節構成組織損傷） 関節構成組織を見直し、過去問題を解くことができる。
7	1/0	柔整総論７	脱臼（分類．症状．合併症．整復障害．予後） 分類・症状などの落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
8	1/0	柔整総論８	筋損傷と腱損傷 筋・腱損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
9	1/0	柔整総論９	末梢神経損傷、血管系・リンパ系損傷、皮膚損傷 神経・脈管損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
10	1/0	柔整総論１０	治療法（固定法．後療法） 固定法と後療法のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
11	1/0	柔整総論１１	評価、治療法（整復法．初期処置） 整復法と初期処置のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
12	1/0	柔整実技総論１	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（損傷の診察、鑑別診断、合併症の有無、説明と同意） 診察の流れを把握することができる。
13	1/0	柔整実技総論２	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（徒手整復、固定法、後療法、治癒の判定、予後） 整復から治癒に至るまでの流れを把握することができる。

14	1/0	柔整実技総論３	肩部の痛みを訴える患者の診察をするときの考え方 鑑別を行い、各疾患のを導き出すことができる。
15	1/0	試験解説	前期試験解説

科目名【英】	後療法学 Arter Treatment of injury			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	3

担当教員	竹田　英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月　整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月　The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る　東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。

学習内容	外傷の経過および治療判断方法を学び、固定除去後の治療法を理解する。 また、臨床で診ることが多い軟部組織損傷の治療法を学ぶ。
到達目標	学んだことを臨床実習、卒業後の臨床で役立てるよう、説明、実施することができるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	柔道整復学理論編 改定第７版、配布プリント
留意点 備　考	上肢の軟部組織損傷の傷病の種類と特徴を復習すると理解につながる。

成績評価	筆記試験100%

授業計画 【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	上肢疾患	肩部軟損（腱板損傷）について理解し、説明できるようになる。
2	1/0	上肢疾患	肩部軟損（腱板損傷、インピンジメント症候群）について理解し、説明できるようになる。
3	1/0	上肢疾患	肩部軟損（上腕二頭筋長頭腱損傷、SLAP損傷）について理解し、説明できるようになる。
4	1/0	上肢疾患	肩部軟損（ルーズショルダー、リトルリーガー肩、ベネット損傷）について理解し、説明できるようになる。
5	1/0	上肢疾患	末梢神経障害（腋窩神経、正中神経、尺骨神経、橈骨神経）について理解し、説明できるようになる。
6	1/0	上肢疾患	末梢神経障害（腋窩神経、正中神経、尺骨神経、橈骨神経）について理解し、説明できるようになる。
7	1/0	上肢疾患	肘関節部の軟損について理解し、説明できるようになる。
8	1/0	上肢疾患	前腕、手指の軟損について理解し、説明できるようになる。

科目名【英】	外傷予防理論実習２ Injury Prevention Conditioning Practices２			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	水曜日	時　限	3.4

担当教員	山本　将史	実務者経験	平成１４年４月より鍼灸整骨院開院　院長として勤務する

学習内容	運動生理学の観点から競技者の身体的変化を理解し、予防やトレーニングの基礎知識を習得、また実技により体得する
到達目標	運動生理学の基礎、ストレッチ、トレーニング、競技者の予防について理解を深める

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	競技者の外傷予防
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験１００点満点

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		運動生理学１	オリエンテーション　運動生理学いついて基礎的な内容と今後の勉強の進め方を理解する
2		運動生理学２	レジスタンストレーニング　持久力トレーニングについて　筋力トレーニングの基礎知識を理解する
3		運動生理学３	エネルギー代謝　ATP―CP系　解糖系　TCA回路　運動時のエネルギー代謝について理解する
4		運動生理学４	筋繊維タイプ　アイソメトリックコントラクション　アイソトニックコントラクション　筋線維の種類や筋収縮の様式を理解する
5		運動生理学５	呼吸中枢　最大換気量　最大酸素摂取量　AT LT　酸素借　運動時の呼吸について理解する
6		運動生理学６	循環　競技者の血圧　運動時の循環系についての理解を深める
7		運動生理学７	運動とホルモン　性ホルモン　運動時のホルモン分泌について理解する
8		運動生理学８	有酸素作業能力　間欠的作業能力　競技者の運動生理学的特徴について理解する
9		外傷予防概論１	外傷の発生要因　内的要因　外的要因について理解を深める
10		外傷予防概論２	外傷の予防対策　外傷予防の基礎知識を理解する
11		外傷予防実技１	タイトネステスト　関節弛緩性テスト　実際の検査法を理解し実践する
12		外傷予防実技１	アイシング　ストレッチング　実際の方法を理解し実践する
13		外傷予防実技１	スポーツマッサージ　スポーツテーピング　実際の方法を理解し実践する
14		外傷予防実技１	体幹強化トレーニング　下肢安定性向上トレーニング　肩甲帯トレーニングなど　種々のトレーニングについて方法を学び実践する
15		総復習	理論実技の総復習　理論実技ともに復習し理解を深める

科目名【英】	柔整外傷学実習１ Judo Therapy and Traumatology Practice1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	月曜日	時　限	3.4

担当教員	西尾　仁孝	実務者経験	平成3年4月から鍼灸整骨院を開業し、平成16年から柔道整復師学科非常勤講師を現在まで行う。

学習内容	各種固定法、軟部組織損傷判別テストの習得
到達目標	卒業実技試験及び認定実技試験科目の実技の習得

準備学習 時間外学習	プリントによる予習、実習後の復習
使用教材	実技マニュアル、シナリオプリント
留意点 備　考	包帯、枕子など固定材料の準備物忘れに留意する。 副教材として柔道整復学理論編、実技編の教科書、固定法マニュアルを持参して受講する事が望ましい。

成績評価	実技審査１００%にて評価する

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	肋骨骨折の固定	シナリオに沿って晒、厚紙副子を使用し肋骨骨折部の固定が出来るようになる。
2	1/0	ボクサー骨折の固定	シナリオに沿ってアルミ副子、包帯を使用しボクサー骨折の固定が出来るようになる。
3	1/0	第二PIP関節背側脱臼の固定	シナリオに沿ってアルミ副子、包帯を使用し第二PIP関節背側脱臼の固定が出来るようになる。
4	1/0	アキレス腱断裂の固定	シナリオに沿ってソフトシーネ、包帯を使用しアキレス腱断裂の固定が出来るようになる。
5	1/0	下腿骨骨幹部骨折の固定	シナリオに沿ってソフトシーネ、包帯を使用し下腿骨骨幹部骨折の固定が出来るようになる。
6	1/0	副子を使用した固定の復習	シナリオに沿って副子を使用した固定（肋骨骨折、ボクサー骨折、第2PIP関節背側脱臼、アキレス腱断裂、下腿骨幹部骨折）の復習をしレベルの高い固定に仕上げる。
7	1/0	膝関節側副靭帯損傷の固定	シナリオに沿ってテーピングを使用し膝関節側副靭帯損傷の固定が出来るようになる。
8	1/0	足関節外側側副靭帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靭帯をバスケットウィーブ固定出来るようになる。
9	1/0	足関節外側側副靭帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靭帯をフィギアエイト固定出来るようになる。
10	1/0	足関節外側側副靭帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靭帯をヒールロック固定出来るようになる。
11	1/0	大腿四頭筋損傷検査法1、2、3	シナリオに沿って伸張時、収縮時（臥位）、収縮時（座位）疼痛誘発テストが出来るようになる。
12	1/0	ハムストリング損傷検査法1,2	シナリオに沿って伸張時、収縮時疼痛誘発テストが出来るようになる。
13	1/0	アキレス腱断裂検査法	シナリオに沿ってトンプソンテストが出来るようになる。
14	1/0	総復習	各種固定と軟部組織検査法を復習し認定実技審査レベルで出来るようになる。
15	1/0	総復習	各種固定と軟部組織検査法を復習し認定実技審査レベルで出来るようになる。

科目名【英】	柔整外傷学実習２ Judo Therapy and Traumatology Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	3.4

担当教員	岩田　早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月　病院に所属 外来の物理療法をおこなう

学習内容	脱臼の診察法および整復法、固定法の座学、実習・実技
到達目標	脱臼の診察法および整復法、固定法を理解して説明することができるようになる。また、これらができるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論・実技本・実技マニュアルを復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、柔道整復学実技編 改定２版
留意点 備　考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	卒業実技試験（脱臼整復）で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		オリエンテーション 肩関節脱臼１	肩関節脱臼の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。
2		肩関節脱臼２	肩関節脱臼の診察および整復ができるようになる。
3		肩関節脱臼３	肩関節脱臼の診察および固定ができるようになる。
4		肩鎖関節脱臼１	肩鎖関節脱臼の診察および整復ができるようになる。
5		肩鎖関節脱臼２	肩鎖関節脱臼の診察および固定を理解し説明することができるようになる。
6		肘関節脱臼１	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復法ができるようになる。
7		肘関節脱臼２	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復法ができるようになる。
8		肘関節脱臼３	肘関節脱臼の固定を理解し説明することができるようになる。
9		上腕骨外科頸骨折	上腕骨外科頸骨折の診察および整復法ができるようになる。
10		肩関節部の検査法１	腱板損傷の診察および検査法ができるようになる。
11		肩関節部の検査法２	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察および検査法ができるようになる。
12		総復習１	卒業実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。
13		総復習２	卒業実技試験の振返り、認定実技試験に向けた診察および整復、固定ができるようになる。
14		総復習３	認定実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。
15		総復習４	認定実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。

科目名【英】	柔整外傷学実習３ Judo Therapy and Traumatology Practice 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	水曜日	時　限	3.4

担当教員	宮越　亮典	実務者経験	2006年４月から現在　接骨院勤務　鍼灸あんま及び接骨院全般の業務 2007年４月から2011年３月　病院勤務　機能訓練、鍼灸、整復固定の業務

学習内容	2022度版柔道整復師国家試験出題基準　必修問題基準の疾患について、診察および整復、固定を理論的に学ぶ。 柔道整復師に必要な項目を中心に、鑑別および実務を学ぶ。
到達目標	柔道整復師師国家試験に対応できるレベルに到達する。 実務における内容の理解と問題での柔軟性を得ることを目標とする。

準備学習 時間外学習	柔道整復学理論編　総論の範囲の予習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	期末試験80%＋小テスト(2回)20%で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	柔整学実習１	鎖骨定型的骨折　①診察及び整復　目標：必修問題への取り組み方の理解 鎖骨定型的骨折の診察及び整復の理解ができる
2	1/0	柔整学実習２	鎖骨定型的骨折　②固定 目標：鎖骨定型的骨折の固定の仕方が理解ができる
3	1/0	柔整学実習３	肩鎖関節上方脱臼　①診察及び整復　②固定 目標：肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復、固定の仕方が理解ができる
4	1/0	柔整学実習４	肩関節烏口下脱臼　①診察及び整復　②固定 目標：肩関節烏口下脱臼の診察及び整復、固定の仕方の理解ができる
5	1/0	柔整学実習５	上腕骨外科頸骨折　①診察及び整復　上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位 骨折　②固定　目標：該当疾患の診察及び整復、固定の仕方が理解できる
6	1/0	柔整学実習６	小テスト1　肘関節後方脱臼　①診察及び整復　②固定　肘内障　①診察 及び整復目標：肘関節後方脱臼、肘内障の診察及び整復の理解ができる
7	1/0	柔整学実習７	コーレス骨折　①診察及び整復　②固定 目標：コーレス骨折の診察及び整復、固定の仕方の理解ができる
8	1/0	柔整学実習８	第５中手骨頸部骨折　②固定　肋骨骨折　②固定　示指PIP関節背側脱臼 ②固定　目標：該当疾患の固定の仕方が理解ができる
9	1/0	柔整学実習９	肩腱板損傷　①診察　上腕二頭筋長頭腱損傷　①診察 目標：該当疾患の診察が理解できる
10	1/0	柔整学実習１０	膝関節側副靭帯損傷①診察　②固定　膝関節十字靭帯損傷　①診察 膝関節半月板損傷①診察　目標：該当疾患の疾患または固定を理解できる
11	1/0	柔整学実習１１	大腿部打撲・肉離れ（大腿四頭筋、ハムストリング、下腿三頭筋） ①診察　目標：該当疾患の診察が理解できる
12	1/0	柔整学実習１２	小テスト2　アキレス腱断裂　②固定　下腿骨幹部骨折　②固定 目標：該当疾患の固定の仕方が理解できる
13	1/0	柔整学実習１３	足関節外側側副靭帯損傷①診察　②固定 目標：足関節外側側副靭帯損傷の診察及び固定の仕方を理解できる
14	1/0	柔整学実習１４	包帯法 目標：各包帯法の走行を把握と理解できる
15	1/0	試験解説	前期試験解説

科目名【英】	柔整外傷学実習４ Judo Therapy and Traumatology Practice 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	1.2

担当教員	鑪野　佳充　/　松井　豊文	実務者経験	（鑪野）1984年～2000年まで整骨院、鍼灸院を開業 （松井）1990年～2003年まで自身の施術所にて施術を行う。

学習内容	柔道整復師にとって必要不可欠な身体の正常運動を学び、臨床固定包帯法を学び練習するとともに国家試験の必要な知識レベルに近づける。
到達目標	人体が動く際の力学、神経及び筋の働き、歩行の力学、発達によって獲得できる運動など頭の中でイメージし、臨床固定包帯を知り身体に施行できるようになることを目標とする。

準備学習 時間外学習	生理学、解剖学、特に筋肉の作用について復習しておくこと。
使用教材	【松井】教科書「運動学」医歯薬出版　配布プリント 【鑪野】各種巻軸包帯の準備
留意点 備　考	

成績評価	【松井】授業毎に前回行った内容の小テストを実施。期末試験80%＋小テスト20%で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	運動の表し方 身体運動と力学	運動の表示方法、身体運動に関する力、人体における単一機械構造、身体運動に関する力、仕事と力学的エネルギー
2	1/0	固定包帯１ （鑪野）	足関節部１。副子を使用しない固定包帯を施行できるようになる。
3	1/0	運動器の構造と機能 神経の構造と機能 反射と随意運動	筋収縮の機序、筋線維の種類、運動単位、神経線維、錐体路と錐体外路、反射、随意運動、
4	1/0	固定包帯２ （鑪野）	足関節部２。副子を使用しない固定包帯を施行できるようになる。
5	1/0	姿勢 歩行	姿勢の分類、重心、立位姿勢、立位姿勢の制御、歩行周期、歩行の運動学的分析、歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動、歩行のエネルギー代謝、走　行
6	1/0	固定包帯３ （鑪野）	肘関節。副子を使用しない固定包帯を施行できるようになる。
7	1/0	運動発達 運動学習	乳幼児期の運動発達、運動学習
8	1/0	固定包帯４ （鑪野）	手関節部。副子を使用しない固定包帯を施行できるようになる。
9	1/0	問題演習1	運動の表し方～神経の構造と機能までの内容で過去問を解かせ知識を定着させる。
10	1/0	固定包帯５ （鑪野）	肩関節部１。副子を使用しない固定包帯を施行できるようになる。
11	1/0	問題演習2	姿勢～運動学習までの内容で過去問を解かせ知識を定着させる。
12	1/0	固定包帯６ （鑪野）	肩関節部２。副子を使用しない固定包帯を施行できるようになる。
13	1/0	固定包帯７ （鑪野）	総復習。副子を使用しない固定包帯を施行できるようになる。
14	1/0	問題演習3	四肢と体幹の運動も含め、全範囲の過去問を解かせ知識を定着させる。
15	1/0	試験解説	前期試験解説

科目名【英】	柔整外傷学実習５ Judo Therapy and Traumatology Practice 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	火曜日	時　限	3.4

担当教員	東　正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属

学習内容	実習を通して各領域の人体構造と機能および外傷について復習する。
到達目標	関連領域の国家試験レベルを解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書　　生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）、柔道整復学理論編、実技編
留意点 備　考	

成績評価	実技試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	生理解剖学総論	身体の基本構造について復習する。
2	1/0	生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習し理解を深める。
3	1/0	体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。
4	1/0	体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。
5	1/0	循環系の外傷	心臓の構造と働きについて理解を深める。
6	1/0	循環系の外傷	体液・血液循環の損傷処置について学ぶ。
7	1/0	循環系の外傷	呼吸器官の構造・呼吸運動の損傷処置について学ぶ。
8	1/0	循環系の外傷	血液ガスの体内動態の損傷処置について学ぶ。
9	1/0	泌尿器系の外傷	泌尿器系の損傷処置について学ぶ。
10	1/0	泌尿器系の外傷	尿の生成と体液の調節について理解を深める。
11	1/0	神経系の外傷	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。
12	1/0	神経系の外傷	神経の損傷処置について学ぶ。
13	1/0	神経系の外傷	神経系の損傷処置について学ぶ。
14	1/0	神経系の外傷	伝導路の損傷について学ぶ。
15	1/0	筋肉の構造と機能	筋肉のの損傷処置について学ぶ。

科目名【英】	柔整医学演習１ Medical Practice of Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	火曜日	時　限	3.4

担当教員	山田　靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく
到達目標	国家試験において担当範囲の80%の正答率を全員が獲得できるようにする また解剖生理を理解することで勉強の楽しさを知る

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備　考	授業では全員が傾聴できるようにし、小テストに向け自学自習を促せるようにする

成績評価	期末筆記試験70点　小テスト40点（授業内）

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		消化器解剖生理	消化器の役割、大まかな働きを理解する。口腔について理解する
2		消化器解剖生理	食道から横隔膜について解剖の詳細と働きについて理解する
3		消化器解剖生理	胃・腹膜の解剖、消化吸収について理解する。また前回までの内容理解のため小テストを実施
4		消化器解剖生理	小腸の解剖について区別できるようになり消化吸収について理解する
5		消化器解剖生理	大腸の解剖を理解する。消化器全体の流れを理解する。消化器全体の復習小テストを実施
6		肝胆膵解剖生理	肝臓胆嚢膵臓の構造及び働きについて理解する
7		肝胆膵解剖生理	肝臓胆嚢膵臓の構造及び働きについて理解する
8		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する。
9		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
10		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
11		肝胆膵疾患	一般臨床医学の肝胆膵疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
12		肝胆膵疾患	一般臨床医学の肝胆膵疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
13		膠原病	膠原病について一般臨床記載内容を理解する
14		膠原病	膠原病について一般臨床記載内容を理解する
15		試験対策	前期末試験の解答解説
16		前期まとめ	前期実施した授業内容のポイント再確認

科目名【英】	柔整医学演習２ Medical Practice of Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	木曜日	時　限	3.4

担当教員	堀口　晃一	実務者経験	整骨院勤務　平成8年3月～平成17年7月

学習内容	下肢軟部組織損傷について解剖も含めて学ぶ
到達目標	下肢の軟部組織損傷を理解し、臨床の現場で役立つ鑑別診断が出来ることを目指す。

準備学習 時間外学習	軟部組織の基礎知識が必要であると共に興味を持つ事が重要である。
使用教材	教科書「 柔道整復学・理論編 第7版」「柔道整復学・実技編第２版」
留意点 備　考	臨床的な説明もするのでしっかりとメモを取ることが望ましい。

成績評価	期末テスト100点満点で100点で評価する。

授業計画 【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	股関節①	股関節を構成する骨、筋、靭帯、神経を知る
2	1/0	股関節②	股関節の軟部組織損傷について知る
3	1/0	大腿部	大腿部の軟部組織損傷について知る
4	1/0	膝関節①	関節を構成する骨、筋、靭帯、特殊構成体、神経を知る
5	1/0	膝関節②	膝関節を構成する靭帯損傷について知る
6	1/0	膝関節③	半月板損傷について知る
7	1/0	膝関節④	膝関節周辺の損傷について知る
8	1/0	下腿部	腿部の軟部組織損傷について知る
9	1/0	足関節①	関節を構成する骨、筋、靭帯、神経を知る
10	1/0	足関節②	足関節の軟部組織損傷について知る
11	1/0	足部①	足部を構成する骨、筋、靭帯、神経を知る
12	1/0	足部②	足部の軟部組織損傷について知る
13	1/0	まとめ①	臨床事例も含めてまとめる
14	1/0	まとめ②	柔道整復学　実技編の内容について解説
15	1/0	試験解説	前期試験解説

科目名【英】	柔整医学演習３ Medical Practice of Judo Therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	1	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	1.2

担当教員	姫　将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012－2014接骨院勤務 2014－東洋医療専門学校専科教員　現在に至る

学習内容	臨床医学総論（診察法・検査法）の基礎を理解し、問題演習を通じて臨床的思考力の向上を図る。
到達目標	設問の意図を正確に読み取り、症例・所見と関連づけて知識を運用できる。

準備学習 時間外学習	基礎知識に不安がある場合は解剖学、生理学の復習をしておくこと
使用教材	配布資料
留意点 備　考	必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績評価	期末試験　筆記100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	診察の基本	診察の進め方を学ぶ 診察の流れと医療面接で聴取すべき項目を説明できる
2	1/0	視診	視診の意義と身体各部位の視診について学ぶ 視診で得られる所見から疑われる疾患を挙げることができる
3	1/0	打診、聴診	打診と聴診の意義、方法について学ぶ 打診および聴診で得られる音から状態を説明できる
4	1/0	触診	触診の意義と身体各部位の触診について学ぶ 圧痛点、腫瘤、浮腫の触診所見について説明できる
5	1/0	バイタルサイン	バイタルサイン（体温、呼吸、血圧、脈拍）とその診察法について学ぶ バイタルサインを挙げて、測定方法と正常・異常を区別して説明できる
6	1/0	感覚検査	感覚検査の意義、種類について学ぶ 感覚の種類を挙げて、各検査の意義を説明できる
7	1/0	反射検査	反射検査の意義、種類について学ぶ 表在反射、腱反射、病的反射、自律神経反射の意義を説明できる
8	1/0	生体機能検査	生理機能検査、検体検査について学ぶ 心電図、筋電図、尿検査、血液検査の臨床的意義を説明できる
9	1/0	問題演習	基礎知識の確認と臨床的思考力の強化 症例や所見と関連付けて知識を運用できる
10	1/0	問題演習	基礎知識の確認と臨床的思考力の強化 設問の意図を読み取って選択肢を適切に選ぶ、または誤答の理由を説明できる
11	1/0	問題演習	出題傾向の理解と解答プロセスの習得 選択肢の消去法および判断根拠を説明できる
12	1/0	問題演習	出題傾向の理解と解答プロセスの習得 選択肢の消去法および判断根拠を説明できる
13	1/0	問題演習	出題傾向の理解と解答プロセスの習得 選択肢の消去法および判断根拠を説明できる
14	1/0	問題演習	思考過程の言語化と共有 論理的に解答を導き、自らの解答根拠を他者に説明できる
15	1/0	総括・フィードバック	所見から疾患を推論する思考過程の習得 提示された症例情報から重要所見を抽出、所見と病態を関連づけて説明できる

科目名【英】	柔整医学演習４ Medical Practice of Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	月曜日	時　限	3.4

担当教員	松田　泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	病態細胞を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学との関連性を把握する
使用教材	病理学　解剖学　生理学
留意点 備　考	パソコン　マウス　使用

成績評価	試験90%　小テスト10%程度を加味する

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	病理学とは	【方法、研究試験による分類診察方法】病理学に対する基本的な知識と方法に説明が出来る
2	1/0	疾病の一般	【疾病の意義と分類疾病の分類病変と症候】疾病の分類や病気の状態を説明できる
3	1/0	細胞障害	【退行性病変、代謝障害、萎縮、変性、壊死】細胞の異常や分類を説明できる
4	1/0	代謝障害と疾病	【尿酸代謝異常カルシュム代謝異常、糖尿病、老化、壊死】代謝異常、糖尿病、黄疸などの説明が出来る
5	1/0	アポトーシスと死	【死の定義、死の判定、死後の変化】アポトーシスと死の違いを説明できる
6	1/0	循環障害1	【血液の循環障害、充血、うっ血虚血、出血血栓症】血液の循環障害やうっ血、虚血について説明できる
7	1/0	循環障害2	【塞栓症、梗塞、浮腫、脱水症】梗塞の種類浮腫の成因脱水症の説明が出来る
8	1/0	循環障害3	【高血圧症、高血圧症の分類】高血圧の病態生理を説明できる
9	1/0	進行性病変	【肥大、過形成、再生、化生】肥大過形成再生化生の分類について説明できるレベル
10	1/0	炎症	【炎症の分類炎症の原因炎症の形態による分類】炎症の病理解剖と原因分類を説明できる
11	1/0	免疫異常アレルギー1	【免疫の仕組み、免疫不全、後天性免疫不全症候群】免疫の仕組みと抗原、抗体、先天性後天性の免疫不全の説明が出来る
12	1/0	免疫異常アレルギー2	【自己免疫疾患、アレルギー】自己免疫疾患とアレルギー反応の分類、病態生理について説明できる
13	1/0	腫瘍	【腫瘍の定義、腫瘍細胞、腫瘍の組織構造生体への影響、発がんの原因腫瘍の分類】腫瘍について病態生理、解剖学的診断、分類の説明が出来る
14	1/0	先天性疾患	【先天性異常、遺伝子異常、染色体異常、奇形の原因、奇形成立の時期】先天性疾患の説明染色体異常の説明が出来る
15	1/0	病因	【病因の一般、内因、外因、遺伝、ストレス】病因の外因、内因について説明が出来る

科目名【英】	社会保障論 Social Security			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	後期	曜　日	土曜日	時　限	3.4

担当教員	林　宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月　鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう

学習内容	柔道整復師として、開業したときに療養費の受領委任の理解が必要になることからも、社会保障論の知識を身につける
到達目標	日本の社会保障制度の構造を理解し、柔道整復師として関わる保険制度の国家試験問題を解くことができる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	テキスト『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』
留意点 備　考	

成績評価	期末試験１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		オリエンテーション、社会保障制度	P1～4 社会保障制度の機能と構造に関して説明ができる
2		社会保険制度とは	P.5～7 社会保険制度の機能と構造に関して説明ができる
3		医療保険制度とは	P.7～9 医療保険の目的と現状に関して説明ができる
4		保険診療の仕組みとは	P.10～14 保険診療の制度の仕組みと現状に関して説明ができる
5		診療報酬制度とは	P.14～17 診療報酬制度の構造に関して説明ができる
6		柔道整復師業務における療養費とは	P.19～25 柔道整復療養費の受領委任に関して説明ができる
7		職業倫理とは	P.49～55 医療従事者の職業倫理に関して説明ができる
8		柔道整復師の社会的責任と対応とは	P.56～65 医療現場での問題と個人情報保護に関して説明ができる

科目名【英】	柔整応用鑑別学 Judo Therapy Differential Diagnosis			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	土曜日	時　限	3.4

担当教員	高橋　秀郎 / 水谷　遼香	実務者経験	高橋）医療法人　淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定手術助手　手術後のリハビリテーション担当　1993年9月～2013年4月 水谷）2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。

学習内容	柔道整復術が適用される疾患の鑑別
到達目標	医用画像から疾患を鑑別できるようになる。 柔道整復術の適否を判断し、患者にとって最適な治療環境を選択できるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	教科書『施術の適応と医用画像の理解』（南江堂）
留意点 備　考	

成績評価	期末筆記100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	医用画像1	放射線の概要やＸ線像の一般撮影法を理解し、説明することができるようになる。
2	1/0	医用画像2	画像のデジタル化、ＣＴ画像の特性を理解し、説明することができるようになる。
3	1/0	医用画像3	ＭＲＩの見方を理解し、説明することができるようになる。
4	1/0	医用画像4	超音波画像装置について理解し、説明することができるようになる。
5	1/0	医用画像5	Ｘ線画像などを読影することができるようになる。
6	1/0	医用画像6	Ｘ線画像などを読影することができるようになる。
7	1/0	医用画像7	Ｘ線画像などを読影することができるようになる。
8	1/0	医用画像8	Ｘ線画像などを読影することができるようになる。
9	1/0	柔道整復術の適否	施術の適応判断の必要性について理解し、説明することができるようになる。
10	1/0	類似疾患1	損傷に類似した症状を示す内臓疾患を柔道整復術の適応症であるか峻別できるようになる。
11	1/0	類似疾患2	腰痛を訴える患者の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
12	1/0	血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷	血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
13	1/0	脱臼骨折・外出血を伴う損傷	脱臼骨折が疑われる場合・外出血がある場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。

14	1/0	意識障害・脊髄症状のある損傷	意識障害や脊髄症状がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
15	1/0	呼吸運動障害を伴う損傷	異常呼吸がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。

科目名【英】	柔整医学演習５ Medical Practice of Judo Therapy 5			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	木曜日	時　限	3.4

担当教員	岩田　早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月　病院に所属 外来の物理療法をおこなう

学習内容	国家試験に必要な知識を取得し、また卒後に役立つ知識を幅広く取得する。
到達目標	国家試験の出題傾向を知り、80%の問題を解くことができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第２版（医歯薬出版）、生理学 改定第４版（南江堂）、一般臨床医学改定３版（医歯薬出版） 配布プリント
留意点 備　考	授業終了後に講義内容の問題を網羅しておく。

成績評価	期末試験100%（筆記）

授業計画 【テーマ・内容･目標】			
1		泌尿器解剖分野１	泌尿器の構造仕組みを理解する。
2		泌尿器解剖分野２	泌尿器全体像を把握し理解する。
3		泌尿器生理分野１	泌尿器のはやらきを理解する。
4		泌尿器生理分野２	泌尿器全体像を把握し理解する。
5		泌尿器疾患１	腎疾患における特徴を知り理解する。
6		泌尿器疾患２	腎臓実質における疾患を理解する。
7		泌尿器疾患３	腎以外の泌尿器疾患を理解する。
8		内分泌総論	出題数の多い内分泌について総論を理解する。
9		内分泌解剖生理１	下垂体のホルモンを理解する。
10		内分泌解剖生理２	頚部のホルモンを理解する。
11		内分泌解剖生理３	胸腹部のホルモンを理解する。
12		内分泌解剖生理４	生殖器ホルモンを理解する。
13		内分泌疾患１	解剖生理を元にした内分泌の疾患を理解する。
14		内分泌疾患２	頭部から胸部にかけた内分泌疾患を理解する。
15		内分泌疾患３	腹部以降の内分泌疾患を理解する。

科目名【英】	柔整医学演習６ Medical Practice of Judo Therapy 6			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	火曜日	時　限	3.4

担当教員	東　正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書　　生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備　考	

成績評価	学期末試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。
2	1/0	筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。
3	1/0	感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。
4	1/0	感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。
5	1/0	感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。
6	1/0	感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。
7	1/0	内分泌	内分泌系の機能と構造についてを理解を深める。個々のホルモンの働きを再確認して理解する。
8	1/0	生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。
9	1/0	生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。
10	1/0	骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。
11	1/0	消化吸収	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。
12	1/0	消化吸収	消化器系の機能調節方法について理解を深める。
13	1/0	代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。
14	1/0	成長・競技 の生理的変化	成長・競技に伴う身体の生理的変化について理解を深める。
15	1/0	総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。

科目名【英】	柔整医学演習７ Medical Practice of Judo Therapy　7			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	月曜日	時　限	3.4

担当教員	松田　泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務に従事する

学習内容	現代医学的な観点から、外科学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	外科学　副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備　考	パソコン　マウス　使用

成績評価	試験９０％　小テスト１０％を加味する

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	外科学とは	外科学の歴史を学び現代との相違点を理解し説明を行う事が出来る
2	1/0	損傷	損傷の分類　損傷の治癒　交通事故外傷　特殊な損傷　熱傷を理解し説明する事が出来る
3	1/0	損傷	救急処置　熱傷の合併症を理解　気道熱傷　その他の損傷を理解し　説明する事が出来る
4	1/0	炎症と外科感染症	感染発症のメカニズム　静脈瘤　梅毒　真菌症　動物の噛み傷を理解し説明できる
5	1/0	腫瘍	概念　発がん　分類良性　悪性　上皮性　非上皮性癌を理解し説明する事が出来る
6	1/0	ショック	心臓性　血液分布異常性　閉塞性ショック血圧　対処法を理解し説明できる
7	1/0	輸血と輸液	輸血の適用　一般輸血　高カロリー輸液について理解し説明できる
8	1/0	消毒と滅菌	主な消毒薬　皮膚消毒　機械の消毒　エチレンガス滅菌について説明できる
9	1/0	手術	手術の分類　各種手術法　皮膚切開　止血　結紮について理解し説明できる
10	1/0	麻酔	概要　全身麻酔　局所麻酔　気管挿管　神経ブロック　緩和ケアについて理解説明できる
11	1/0	移植と免疫	同系移植　同種移植　臓器の保存について理解し説明できる
12	1/0	出血と止血	出血の分類　出血血管の分類　原因について理解し説明できる
13	1/0	出血と止血	鼻出血　喀血　吐血　腹腔内出血器械的止血　物理的止血　化学的止血について理解し説明できる
14	1/0	救急処置	新派蘇生法　心臓マッサージ　人工呼吸　AEDNについて理解し説明できる
15	1/0	テストの解説	テストの解説をし相互理解を深め　国家試験合格に向けて理解する

科目名【英】	柔整医学演習８ Medical Practice of Judo Therapy 8			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	月曜日	時　限	3.4

担当教員	姫　将司 / 水谷　遼香	実務者経験	姫）2010-2012整形外科で勤務、2012－2014接骨院勤務 2014－東洋医療専門学校専科教員　現在に至る 水谷）鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、 機能訓練指導員として従事。

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。 柔道整復師において必要なリハビリテーション医学ならびに機能訓練の知識を修得する。
到達目標	国家試験レベルの問題を6割正解できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学、生理学、運動学の復習をおこなうことを勧める。
使用教材	ＰＣ　/　教科書『リハビリテーション医学』『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	後期末試験（筆記　100%）で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	リハ医学の概念１	リハビリテーション医学概論【概念・障害レベル】 障害分類について説明できる。
2	1/0	リハ医学の概念２	リハビリテーション医学概論【障害レベル・アプローチ・チーム医療】 障害分類に対応するアプローチについて説明できる。
3	1/0	基礎医学	リハビリテーションに関する基礎医学【障害学・神経解剖・神経生理・神経損傷】 末梢神経麻痺・中枢神経麻痺の違いについて説明できる。
4	1/0	評価と診断	評価と診断【ＡＤＬ】 ADLと評価法について説明できる。
5	1/0	治療学１	治療【理学療法・作業療法】 理学療法と作業療法の違いについて説明できる。
6	1/0	治療学２	治療【装具療法】 補装具の名称と適応について説明できる。
7	1/0	リハビリの実際１	各論【脳卒中①】 脳卒中の病態について説明できる。
8	1/0	リハビリの実際２	各論【脳卒中②】 脳卒中のリハビリテーションについて説明できる。
9	1/0	発達と老化の理解	サルコペニアとフレイルの違い、老化・高齢者特有疾患についてについて理解し、説明することが出来るようになる。
10	1/0	認知症の理解	認知症の原因・種類・症状・対応などについて理解し、説明することが出来るようになる。
11	1/0	ロコモティブシンドローム	原因・ロコモテスト方法・評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
12	1/0	介護保険制度	介護保険・要介護度・各種介護サービスについて理解し、説明することが出来るようになる。
13	1/0	高齢者介護とＩＣＦ	高齢者介護における目標、ICF、機能訓練実施計画書について理解し、説明することが出来るようになる。

14	1/0	機能訓練指導Ⅰ	機能訓練指導員の定義、機能訓練の流れ、機能訓練身体能力測定方法と評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
15	1/0	機能訓練指導Ⅱ	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。

科目名【英】	柔整医学演習９ Medical Practice of Judo Therapy 9			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	金曜日	時　限	3.4

担当教員	林　宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月　鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう

学習内容	国家試験の必修問題に出題される実技範囲について学ぶ
到達目標	国家試験の必修問題を解くことができる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学　理論編』『柔道整復学　実技編』　配布プリント
留意点 備　考	柔道整復学理論編と実技編の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	定型的鎖骨骨折	定型的鎖骨骨折について説明することができる
2	1/0	上腕骨外科頸外転型骨折	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
3	1/0	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折について説明することができる
4	1/0	コーレス骨折	コーレス骨折について説明することができる
5	1/0	第５中手骨頸部骨折	第５中手骨頸部骨折について説明することができる
6	1/0	肋骨骨折	肋骨骨折について説明することができる
7	1/0	肩鎖関節上方脱臼	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
8	1/0	肩関節烏口下脱臼	肩関節烏口下脱臼について説明することができる
9	1/0	肘関節後方脱臼	肘関節後方脱臼について説明することができる
10	1/0	肘内障	肘内障について説明することができる
11	1/0	示指PIP関節背側脱臼	示指PIP関節背側脱臼について説明することができる
12	1/0	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷について説明することができる
13	1/0	大腿部打撲、肉離れ	大腿部打撲、肉離れについて説明することができる
14	1/0	膝関節軟部組織損傷	膝関節軟部組織損傷について説明することができる
15	1/0	足関節軟部組織損傷	足関節軟部組織損傷について説明することができる

科目名【英】	柔整医学演習１０ Medical Practice of Judo Therapy 10			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	火曜日	時　限	3.4

担当教員	岩本　暁美	実務者経験	2007年5月～2010年6月　接骨院に所属し施術をおこなう。

学習内容	過去問をベースに各部位の軟部組織損傷を鑑別できるようになる。
到達目標	国家試験合格レベルに到達する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	期末試験 100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	股関節の 軟部組織損傷１	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群、股関節外転位拘縮、 内転位拘縮、屈曲位拘縮を理解する
2	1/0	股関節の 軟部組織損傷２	発育性股関節不全、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、大腿骨頭壊死症、 変形性股関節症について理解する
3	1/0	股関節の 軟部組織損傷３	国試過去問で振り返り、問題解説を行う
4	1/0	大腿部の 軟部組織損傷１	筋損傷の総論を振り返り、大腿部打撲、大腿四頭筋の肉ばなれについて理解する
5	1/0	大腿部の 軟部組織損傷２	ハムストリングスの肉ばなれについて理解し、 国試過去問で振り返り、問題解説を行う
6	1/0	膝関節の 軟部組織損傷１	Osgood-Schlatter病、ジャンパー膝、分裂膝蓋骨、腸脛靭帯炎、鵞足炎、分裂膝蓋骨、 膝蓋軟骨軟化症、タナ障害、膝蓋大腿関節症について理解する
7	1/0	膝関節の 軟部組織損傷２	膝周囲の滑液包異常、総腓骨神経麻痺、ハンター管症候群について理解し、 国試過去問で振り返り、問題解説を行う
8	1/0	下腿部の 軟部組織損傷１	アキレス腱炎、周囲炎、断裂、下腿三頭筋の肉ばなれについて理解する
9	1/0	下腿部の 軟部組織損傷２	シンスプリント、下腿コンパートメント症候群について理解し、 国試過去問で振り返り、問題解説を行う
10	1/0	足関節の 軟部組織損傷１	足関節捻挫、脛腓靭帯結合部損傷、二分靭帯損傷、足根洞症候群について理解する
11	1/0	足関節の 軟部組織損傷２	腓骨筋腱脱臼、衝突性外骨腫、三角骨障害、有痛性外脛骨、踵骨棘および足底腱膜炎 足根管症候群、外反母趾、扁平足障害について理解し、国試過去問で振り返り、問題解説を行う
12	1/0	足趾の 軟部組織損傷	中足部の有痛性疾患、前足部の有痛性疾患について理解し、 国試過去問で振り返り、問題解説を行う
13	1/0	頭部・顔面部・体幹の軟部組織損傷	顎関節症、むち打ち症、寝違え、胸郭出口症候群について理解し、 国試過去問で振り返り、問題解説を行う
14	1/0	前腕部の 軟部組織損傷	コンパートメント症候群、交叉症候群、神経障害について理解し、 国試過去問で振り返り、問題解説を行う
15	1/0	手関節部、指の 軟部組織損傷	TFCC損傷、手根管症候群、ギヨン管症候群、キーンベック病、マーデルング変形、手指 靭帯損傷、ロッキングフィンガーなどについて理解し、国試過去問で振り返り、問題解説を行う

科目名【英】	柔整医学演習１１ Medical Practice of Judo Thrapy 11			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	水曜日	時　限	3.4

担当教員	服部　博幸	実務者経験	1992年より病院並びに学校にて、鍼灸および柔道整復施術を行う。2016年より通所介護事業も立ち上げ、従事している。

学習内容	上肢および下肢の骨折及び脱臼について部位ごとに学ぶ。
到達目標	臨床の場で使えるよう受傷原因から総合的に外傷を判断できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	欠席された場合、次の授業に差し支えないよう配布プリントは事前にとりに来てください。

成績評価	筆記試験結果（100%）を元に評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	柔道整復学演習１	【手・手指部の骨折・脱臼1】 手根骨骨折と脱臼について、理解を深める。
2	1/0	柔道整復学演習２	【手・手指部の骨折・脱臼2】 中手骨骨折と脱臼について理解を深める。
3	1/0	柔道整復学演習３	【手・手指部の骨折・脱臼3】 中手骨骨折と脱臼について理解を深める。
4	1/0	柔道整復学演習４	【手・手指部の骨折・脱臼4】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。
5	1/0	柔道整復学演習５	【手・手指部の骨折・脱臼5】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。
6	1/0	柔道整復学演習６	【手・手指部の骨折・脱臼6】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。
7	1/0	柔道整復学演習７	【上腕骨遠位端部骨折】 内側上顆骨折・外顆骨折・顆上骨折について理解を深める。
8	1/0	柔道整復学演習８	【前腕骨近位端骨折・脱臼1】 橈骨頭・頚部骨折、肘頭骨折、肘内障について理解を深める。
9	1/0	柔道整復学演習９	【前腕骨近位端骨折・脱臼2】 肘関節脱臼について理解を深める。
10	1/0	柔道整復学演習10	【前腕骨骨幹部の骨折1】 橈骨単独・尺骨単独・両骨骨折について理解を深める。
11	1/0	柔道整復学演習11	【前腕骨骨幹部の骨折2】 モンテギア・ガレアジ骨折について理解を深める。
12	1/0	柔道整復学演習12	【前腕骨遠位端部骨折および手関節周辺部の脱臼】 前腕骨遠位端骨折・手関節周辺部の脱臼について理解を深める
13	1/0	柔道整復学演習13	【試験解説】
14	1/0	柔道整復学演習14	【鎖骨骨折・脱臼、肩甲骨骨折】 鎖骨骨折・脱臼、肩甲骨骨折について理解を深める。
15	1/0	柔道整復学演習15	【練習問題とそのフィードバック】 代表的な過去の国家試験問題を解き、現在の知識レベルを確認する。

科目名【英】	柔整医学演習１２ Medical Practice of Judo Therapy 12			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	金曜日	時　限	3.4

担当教員	堀口　晃一	実務者経験	整骨院勤務　平成8年3月～平成17年7月

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	別問題を用いて復習を徹底する。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、配布プリント 『衛生学』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	筆記100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	神経系①	解剖学的神経系基礎に関する問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
2	1/0	神経系②	神経生理学基礎における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
3	1/0	神経系③	中枢神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
4	1/0	神経系④	中枢神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
5	1/0	神経系⑤	反射について問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
6	1/0	神経系⑥	神経性調節について問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
7	1/0	神経系⑦	脊髄神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
8	1/0	衛生学	健康の概念・疾病予防と健康管理の国家試験を理解できるようにする。
9	1/0	衛生学	感染症の予防の国家試験を理解できるようにする。
10	1/0	衛生学	消毒の国家試験を理解できるようにする。
11	1/0	衛生学	環境衛生の骨化試験を理解できるようにする。
12	1/0	衛生学	生活環境・母子保健の国家試験を理解できるようにする。
13	1/0	衛生学	学校保健・産業保健の国家試験を理解できるようにする。
14	1/0	衛生学	成人・高齢者保険、精神保健の国家試験を理解できるようにする。
15	1/0	衛生学	疫学・衛生行政・地域保健の国家試験を理解できるようにする。

科目名【英】	柔整医学演習13 Medical Practice of Judo Therapy 13			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	水曜日	時　限	1、2

担当教員	本田　珠美	実務者経験	2022年4月から付属接骨院にて勤務

学習内容	国家試験に向けて、応用問題にも対応できるほどの知識を取得する。
到達目標	整形外科だけでなく、他科目にも応用できるよう広い知識を持ち、他者に説明ができ得点へ繋げられるようになる。

準備学習 時間外学習	二年時の整形外科学の内容を復習しておく。
使用教材	整形外科学 改定第４版（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	授業内で理解しきれなかった部分は、授業終了後に確認する。

成績評価	期末試験100%（筆記）

授業計画 【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	感染性疾患①	感染性疾患についての問題を解き、説明できるようになる。
2	1/0	感染性疾患②	感染性疾患についての問題を解き、説明できるようになる。
3	1/0	骨腫瘍①	悪性骨腫瘍についての問題を解き、説明できるようになる。
4	1/0	骨腫瘍②	悪性骨腫瘍についての問題を解き、説明できるようになる。
5	1/0	骨腫瘍③	良性骨腫瘍についての問題を解き、説明できるようになる。
6	1/0	骨腫瘍④	良性骨腫瘍についての問題を解き、説明できるようになる。
7	1/0	骨関節疾患①	骨関節疾患についての問題を解き、説明できるようになる。
8	1/0	骨関節疾患②	骨関節疾患についての問題を解き、説明できるようになる。
9	1/0	骨関節疾患③	骨関節疾患についての問題を解き、説明できるようになる。
10	1/0	先天性骨系統疾患①	先天性骨系統疾患についての問題を解き、説明できるようになる。
11	1/0	先天性骨系統疾患②	先天性骨系統疾患についての問題を解き、説明できるようになる。
12	1/0	先天性骨系統疾患③	先天性骨系統疾患についての問題を解き、説明できるようになる。
13	1/0	脈管系①(動脈)	脈管系についての問題を解き、説明できるようになる。
14	1/0	脈管系②(静脈)	脈管系についての問題を解き、説明できるようになる。
15	1/0	総復習	この講義の総まとめを行い、問題で確実に点数を獲得できるようになる。

科目名【英】	柔整医学演習14 Medical Practice of Judo Therapy 14			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	木曜日	時　限	3.4

担当教員	姫　将司	実務者経験	2010-2012整形外科で勤務、2012－2014接骨院勤務 2014－東洋医療専門学校専科教員　現在に至る

学習内容	循環器・呼吸器・血液・神経系疾患について、問題演習を通じて臨床的思考力の向上を図る。
到達目標	設問の意図を正確に読み取り、症例・所見と関連づけて知識を運用できる。

準備学習 時間外学習	基礎知識に不安がある場合は解剖学、生理学の復習をしておくこと
使用教材	配布資料
留意点 備　考	必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績評価	期末試験　筆記100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	循環器疾患	うっ血性心不全、虚血性心疾患 心不全、狭心症、心筋梗塞の病態、症状を説明できる
2	1/0	循環器疾患	心臓弁膜症、不整脈、動脈疾患 各疾患の病態、症状を説明できる
3	1/0	循環器疾患	先天性心疾患、問題演習 循環器疾患に関する問題を正しく解答できる
4	1/0	血液・造血器疾患	血液、血球の役割と機能 血液と血球の役割と機能について説明できる
5	1/0	血液・造血器疾患	血液・造血器疾患の主要徴候、赤血球疾患、出血傾向 主要徴候と赤血球疾患の概要を説明できる
6	1/0	血液・造血器疾患	白血球系・リンパ系疾患 各疾患の病態、症状を説明できる
7	1/0	血液・造血器疾患	問題演習 血液・造血器疾患に関する問題を正しく解答できる
8	1/0	神経系疾患	主要徴候、脳血管障害 主要徴候と脳血管障害の概要を説明できる
9	1/0	神経系疾患	神経変性疾患、神経免疫疾患、筋疾患 各疾患の病態、症状を説明できる
10	1/0	神経系疾患	問題演習 神経系疾患に関する問題を正しく解答できる
11	1/0	呼吸器疾患	肺結核、肺癌、気胸 各疾患の病態、症状を説明できる
12	1/0	呼吸器疾患	主要徴候、COPD、気管支喘息 各疾患の病態、症状を説明できる
13	1/0	呼吸器疾患	肺結核、肺癌、気胸 各疾患の病態、症状を説明できる
14	1/0	呼吸器疾患	問題演習 呼吸器疾患に関する問題を正しく解答できる
15	1/0	総括・フィードバック	所見から疾患を推論する思考過程の習得 提示された症例情報から重要所見を抽出、所見と病態を関連づけて説明できる

科目名【英】	柔整医学演習１５ Medical Practice of Judo Therapy 15			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	金曜日	時　限	3.4

担当教員	岩崎　英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行う。
到達目標	卒後に役立つ知識、技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	配布したプリントを復習する
使用教材	柔道整復学理論編、実技編、解剖学
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		骨盤部の損傷	骨盤骨骨折について理解し説明することができる。
2		股関節部の損傷１	大腿骨頭部骨折、大腿骨頸部骨折について理解し説明することができる。
3		股関節部の損傷２	大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折、股関節脱臼１について理解し説明することができる。
4		股関節部の損傷３	股関節脱臼２について理解し説明することができる。
5		大腿部の損傷	大腿骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。
6		膝関節部の損傷１	大腿骨顆上骨折、大腿骨骨端線離開、大腿骨顆部骨折、内側側副靭帯付着部の裂離骨折について理解し説明することができる。
7		膝関節部の損傷２	脛骨顆部骨折、脛骨顆間隆起骨折について理解し説明することができる。
8		膝関節部の損傷３	脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折について理解し説明することができる。
9		膝関節部の損傷４	膝関節脱臼、膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼について理解し説明することができる。
10		下腿部の損傷１	下腿近位端部骨折、下腿骨幹部骨折について理解し説明することができる。
11		下腿部の損傷２	下腿遠位端部骨折、足関節の脱臼骨折について理解し説明することができる。
12		足関節部の損傷	足根骨骨折、足関節の脱臼、中足骨骨折について理解し説明することができる。
13		足・趾部の骨折 鎖骨部の損傷	趾骨骨折、鎖骨骨折、鎖骨の脱臼について理解し説明することができる。
14		肩関節部の損傷１	上腕骨近位端部骨折について理解し説明することができる。
15		肩関節部の損傷２	上腕骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。

科目名【英】	柔整医学演習１６ Medical Practice of Judo Therapy 16			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	水曜日	時　限	1.2

担当教員	竹田　英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月　整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月　The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る　東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。

学習内容	疾病の機能解剖や発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	疾患の特徴を説明し、柔道整復師国家試験の問題解説ができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要である。
使用教材	柔道整復学理論編 改定第7版、　配布プリント
留意点 備　考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	認定実技審査	骨折（鎖骨骨折など）の整復法・固定法
2	1/0	認定実技審査	脱臼（肩関節脱臼など）の整復法・固定法
3	1/0	認定実技審査	軟部組織損傷（肩腱板損傷など）の徒手検査法
4	1/0	認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
5	1/0	認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
6	1/0	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
7	1/0	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
8	1/0	症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
9		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
10		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
11		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
12		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
13		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
14		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
15		定期試験	軟部組織損傷について基礎的な問題を答えることができる。

科目名【英】	柔整医学部演習１７ Medical Practice of Judo Thrapy 17			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	後期	曜　日	水曜日	時　限	3.4

担当教員	山本　将史	実務者経験	平成１４年４月より鍼灸整骨院開院　院長として勤務する

学習内容	認定実技審査、国家試験にむけて
到達目標	鎖骨骨折、外科頸骨折、コーレス骨折、足関節損傷の整復及び固定 外科学概論をテーマとして臨床実地問題が解けるレベルに達する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1	1/0	国家試験対策	運動学分野の国家試験問題、臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
2	1/0	国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
3	1/0	国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
4	1/0	国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
5	1/0	国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
6	1/0	国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
7	1/0	国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。
8	1/0	国家試験対策	外科学分野の臨床実地問題について知識を高め、演習問題を解くことができるようになる。